

派遣者番号	29K16	氏名	木村 隆史
研究主題 —副主題—	「特別の教科 道徳」の特質を生かした問題解決的な学習の在り方		
派遣先	東京学芸大学教職大学院	担当教官	永田 繁雄
所属校	豊島区立豊成小学校	校長	高橋 慎二

キーワード：特別の教科 道徳 問題解決的な学習 主体的・対話的で深い学び

## 1 研究の背景(目的)・主題設定の理由等

### (1) 研究の背景と意義

#### ① 道徳の時間の指導方法をめぐる状況

これまで道徳の時間は、道徳教育の要として、子供に道徳的価値の自覚や生き方についての考えを深めさせ、子供の道徳性を養う役割を果たしてきた。しかし、指導方法にばらつきが大きいことや、単に読み物の登場人物の心情を理解させるだけなどの型にはまったものになりがちであることなどの課題が指摘されている。

#### ② 授業改善の方向性

「道徳教育に関わる評価等の在り方に関する専門家会議」は、その報告書(平成28年7月22日)で質の高い多様な指導方法の例として「読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習」「問題解決的な学習」「道徳的行為に関する体験的な学習」を提示した。学校現場では、この指導方法が注目され、授業改善の核となる様子を見せている。

#### ③ 問題解決的な学習に関する指導方法の混在

各研究会、複数の研究者が問題解決的な学習に関する多種多様な指導方法を新しく提唱し、学校現場には多種多様な指導方法が混在している。教師からは、問題解決的な学習を取り入れたいが、どの指導方法で授業を行えばよいのか分からないといった声も聞かれる。

### (2) 研究の目的

本研究では、「特別の教科 道徳」において、今まで広く行われてきた自我関与が中心の学習や体験的な学習のよさを継承しつつ、子供がより主体的・対話的に深く学ぶために、「特別の教科 道徳」の特質を生かした問題解決的な学習の在り方を明らかにすることを目的とする。

## 2 研究の内容・研究の方法

### (1) 基礎研究…道徳科の特質と問題解決的な学習に関する考えの押さえ

### (2) 調査研究…教師への意識調査を通じた実態把握と分析

### (3) 実践研究…授業の構想と実践、その手だて等の検証

## 3 研究の結果

### (1) 基礎研究

#### ① 3つの質の高い指導方法に関わる指導論の展開

ア 登場人物への自我関与が中心の学習が重視されてきた意義

道徳の時間で心情に重点を置いて指導することで態度を養うことになると考え、道徳の時間では心情を育てることに重点が置かれてきた。

イ 授業改善の核となる問題解決的な学習

明確な指導の意図に基づく問題設定や話し合い、一人一人の確実な理解を重視したり、自分の生き方を選び取っていく力を重視したりする。

ウ 道徳的行為に関する体験的な学習への期待

子供が楽しく、学習意欲的にする上に、観念ではなく体験によって実感することで、生きた学びになる。

#### ② 問題解決的な学習を軸とした関連的な構想の必要性

3つの質の高い指導方法それぞれによさがあるが課題もある。よさを組み合わせたり、課題を補完したりできる多様なスタイルを生み出すことが必要であると考えた。

### (2) 調査研究

#### ① 調査の実施概要

名称：「特別の教科 道徳」に関するアンケート  
対象：平成29年度東京都内の道徳教育研究推進校の道徳教育推進教師

期間：2017年8月1日～31日

配布数：114部(小学校63部中学校51部)

回収率：77.2%(114校中88校)

#### ② 調査結果の概要

教師は子供の実態や教材等に応じて指導の展開や方法を変える割合は高いが、自信をもって授業に臨む割合が低くなる。「特別の教科 道徳」の授

業のイメージがある割合は高いが、自信をもって授業に臨む割合が低くなる。子供の実態よりも教材の内容に応じて指導の展開や方法を変えている。

授業の中で子供が自分自身を見つめ、多面的・多角的に考え、よりよく生きようとする意欲を高める学びが求められている。

授業では自分との関わりで考えさせ、主体的に学習に参加させたいと考えている。小学校段階では教材選びよりも、教科書の中の教材を扱うとき、その教材をどのように活用するかに力を入れている。

学習では追究が中心、解決は行為で表すという問題解決的な学習のイメージがあり、小学校よりも中学校の方が学習問題を子供に考えさせたいと教師は考えている。

### ③ 調査結果に基づく実践の方向性と方策

- a) 指導方法の組み立てへの焦点化
- b) 指導方法選択の明確化
- c) 子供の問題意識と確実な理解の重視
- d) 発達段階に応じた指導方法の応用

### (3) 実践研究

#### ① 授業の構想と検証授業の実施計画

学習指導要領の内容、子供の実態等を基に、ねらいとする道徳的価値に照らして子供に育てたい心・身に付けさせたい力を考える。教材を活用して教師が考えさせたいことと子供が考えたいことが重なるように授業の中心を決める。その上で、3つの質の高い指導方法のよさが生かされる学習となるように授業を構想する。

スタイルⅠ…問題解決的な学習

スタイルⅡ…問題解決的な学習＋自我関与が中心の学習

スタイルⅢ…問題解決的な学習＋体験的な学習

スタイルⅣ…問題解決的な学習＋自我関与が中心の学習＋体験的な学習

#### ② 検証授業の実施と分析

##### ア 授業の実施

2017年12月に都内公立小学校第5・6学年各2学級において4教材を活用し、16回の検証授業を実施した。

授業群①「命の重さはみな同じ」(D:生命の尊さ)

授業群②「キャプテンとして」(C:よりよい学校生活、集団生活の充実)

授業群③「夏の日のこと」(B:親切、思いやり)

授業群④「心のししゅう」(A:正直、誠実)

#### イ 授業の分析

16回の授業を授業の逐語記録、子供のノート記述、板書等を基に比較・分析すると、以下に示す傾向が見られた。

スタイルⅠ…考えの違いに注目するようになり、意見が対立し、話し合いが活発になる。

スタイルⅡ…互いの考えを理解し合ったり認め合ったりする言葉が多くなり、親和的な認め合いが見られる。

スタイルⅢ…友達の演技を複数回見る中で自分の考えをより明確にし、根拠が明確で強い意志を伴う内容が多くなる。

スタイルⅣ…友達の演技を見る中で自分の考えをより明確にし、演者の台詞よりも仕草や表情に注目するようになる。

#### ウ 質問紙による子供の自己評価の分析

子供の自己評価はスタイルⅠ～Ⅳの全てで肯定的に答える割合が高く、それぞれが子供に学ぶ意味のある授業であり、問題解決的な学習の効果があつたと考える。

### 4 研究の考察

#### (1) 研究のまとめ

本研究全体として明らかになったのは、以下の3点である。

- a) 問題解決的な学習を軸とした授業は「特別の教科 道徳」の実施課題に対応できる。
- b) 本研究の問題解決的な学習を軸とした4つのスタイルは、それぞれによさがある。
- c) 質の高い多様な指導方法を組み合わせることで授業がより活性化する。

#### (2) 研究の課題

3つの質の高い多様な指導方法の区分に頼らない柔軟な指導方法に基づく研究の必要性、子供の道徳性に係る評価と重ねて授業検討を行う研究の可能性がある。問題解決的な学習のよさがさらに生かされるように、今後も検証していくことが課題である。

### 5 今後の展望

所属する学校や地区、研究会などにおいて、更なる研究の一助となるように成果を活用していく。そして、それらを通して、これからの時代を生きていく子供の豊かな成長を育んでいきたい。